おっぱい通信

―赤ちゃんに優しい病院を目指して―

Vol. 04
2016年06月号
岩手県立磐井病院
BFHプロジェクトチーム

堺武男先生の「今なぜ母乳なの？」研修会開催決定！

来たる**7月6日（水）17：45**より、東北母乳の会会長の堺武男先生より、**「今なぜ母乳なの？～母乳育児を成功させるための10か条」**について講演していただきます。
母乳育児支援についてはWHO/UNICEFでも推奨しているにもかかわらず、なぜこんなに難しいのでしょうか。私達3西病棟スタッフも毎日カンファレンス等で話し合いながら、何が赤ちゃんにとって一番よいのか、正しいのか模索する毎日です。そのあたりを詳しくお話していただき、自信をもって母乳育児支援ができるよう今回の研修会を企画しました。もちろんどなたでも参加できます。予約は不要です。
もし御都合の合わない方は6月25日アイーナで行われる「わくわくおっぱいの集い（いわて母乳の会主催）」でも講演予定です。ご家族みんなで参加できます！！

「母乳育児成功のための10カ条」の第4条

産後30分以内の授乳

10ヵ条では「産後30分以内に母乳育児が開始できるよう、母親を援助しましょう」と述べています

具体的に出産の場では…

児娩出直後、医師の許可があれば臍帯切断後すぐに母親に抱いてもらいます。
この時、低体温、低血糖を予防するために帽子を被せたり温めておいたバスタオルをかけ、スタッフが一人ついて母子の接触を見守ります。
多くの児は30分以内に自分で乳房の方に移動し、乳首の吸啜を始めます。分娩台での出産では、体勢がうまくとれないことが多いため、乳房の方に児を近寄せるお手伝いをすることもあります。
しかし、吸啜は赤ちゃんが自分で開始するのをゆっくり見守ります。

帝王切開術での援助

帝王切開術での出産も、経腟分娩と同様に30分以内の授乳の援助が求められます。当院では産後新生児科で蘇生し落ち着いてから、手術中である母の胸に抱っこします。その後病棟で母が帰室するのを待って授乳の援助をします。現状では産後授乳が開始できるのが平均90分後となっています。人員や環境面からなかなか実施できていないため、今後課題として取り組んでいく必要があります。

お問い合わせ

この通信の内容に関することだけでなく、現在妊娠中・育児中の方、その家族や上司の方などの、母乳に関する様々な相談もお受けいたします。また、月1回発行予定の本通信に掲載させていただける皆様のかわいいお子様の写真も募集中です！さらに、**一緒にこのチームに参加して頂ける方**も大募集！！どうぞお気軽にご連絡ください★

BFHプロジェクトチーム
チームリーダー　：今野貴子（3西病棟）
通信発行担当：佐藤　恵（3西病棟）